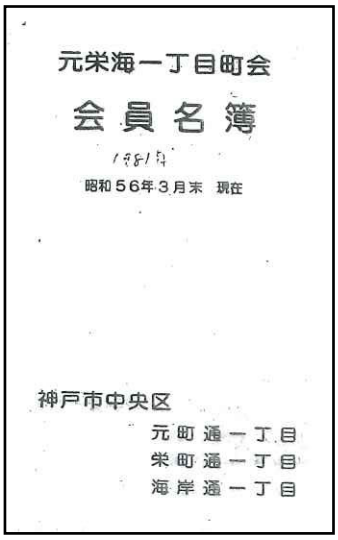
みなと MOTOMACHI ケンチクさんぽ vol.7

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会　地域まちづくり委員会



入居して知らされたのは、町内会ごとに一丁目でくくられた組織がある事で会費は店子でも月額200円という事でした。会長は兼田朋一氏で、この組織が震災後、栄町通りの歩道の拡幅、無電柱化等、栄町通のビジネス街の整備の元となったといえます。

震災前の旧居留地の店舗

1980年代の元町ゲート

南京町 第1期改造

元町 50年の変遷

我々が仕事場を栄町１丁目の住友信託銀行の６階に持ったのは、1972年で、50年前になります。その時の栄町1丁目の四つ角は、すべて銀行で固められていました。入居して数年間は夏の季節になると、磯の香りがして、港が近い事を感じさせました。また大雨が降ると道路中央のマンホールの蓋が１M程飛び上がり、水が吹き出す事がたびたびありました。当時はこの様にインフラは、未熟でしたが、しかし1995年の大震災の時には栄町通りは、日銀や市役所に通じている道路のため、インフラは完全でした。

事務所は、ビルの６階で東面に窓が有り、道路を隔てて東側は旧居留地でした。日曜日は人通りは無く、ゴーストタウンの様子でした。また、北側の南京町は道路幅も狭く、戦後、朝鮮戦争の時代の船員や進駐軍向けの外人バーの名残があり、電柱と電線がクモの巣のごとく張りめぐらされた町でした。

戦後の元町地区の賑わいは、大丸百貨店の店長、長沢氏の時代、1989年～1992年に居留地ビルの１階に有名ブランドの店舗が出店ラッシュしたことに始まります。これにより、旧居留地の活性化が始まり、にぎわいがよみがえりました。1995年の大震災で旧居留地の建物は19棟倒壊の被害を受けましたが、旧居留地には連絡協議会と云う組織が有り、「旧居留地復興計画」を作成しました。まちのトータルイメージとして、

まち全体が公園
まち全体がミュージアム
人間が主体
歩行者にやさしい町

のスローガンのもとに、旧居留地は大きなコリドールを持った大丸百貨店と共に、風格有る街なみを平成９年（1997年）までの２年間で造り上げ、バスによる北野異人館との観光ルートも整備されました。

南京町も神戸市の指導のもとに、道路は８M幅に広げられ、東入口に長安門が建ち、中華街と呼び名を変え、石畳の道路に南京ハゼの植栽が有る道路整備が行われました。また、震災後は1996年に、電柱地中化工事が行われ、新しく石畳が施工され、文字通り中華街と呼ばれる様子になりました。

元町商店街については、東の入口一番街から西の６丁目まで全蓋のアーケードが有りました。アーケードの入口には、1980年に建築家アントニン・レーモンド氏によるヨーロッパの城門を思わせる、アルキャスト（アルミ鋳物）で出来た、造形的にもすばらしいデザインのゲートがありました。しかし、2000年（平成12年）にミレニアム記念としてステンドグラスのゲートに変わりました。

この様に神戸市一番の商業密度をもつ商店街に形成されました。

稲地 一晃（いなちかずあき）
計画工房 INACHI 代表／
一級建築士